551

副甲状腺機能亢進症の診断における ^{99m}Tc-MIBI シンチグラフィの有用性 -CT・USとの比較-

福永浩太郎，山本由佳，高橋一枝，西山佳宏，佐藤 功，高島 均，大川元臣，田邊正忠（香川医大 放）

副甲状腺病変の検出における ^{99m}Tc-MIBI シンチグラフィの有用性を検討し，同時期に施行されたCT・USと比較を行った。 対象は手術で確認された副甲状腺機能亢進症15例23病変である。^{99m}Tc-MIBI シンチグラフィは静注10分後の早期像と2時間後の後期像を視覚的に評価した。CT・USは頚部を対象に病変の有無を検討した。 ^{99m}Tc-MIBI の陽性描画率は早期像で44%，後期像で78%，CTで56%，USで64%であり，^{99m}Tc-MIBI 後期像の検出率が最も良かった。^{99m}Tc-MIBI での検出最小例は280mg の腺腫であった。 ^{99m}Tc-MIBI による副甲状腺シンチグラフィはCT，USよりも検出率に優れ，有用な検査法であると考えられた。

552

^{99m}Tc-MIBI SPECTによる上皮小体機能亢進症の局在診断の有用性

大島統男、菊池善郎、神長達郎、原澤有美、白井辰夫、横川徳造、古井 滋、安河内浩(帝京大放)、 高見 博、佐竹省二(同1外)

上皮小体機能亢進症の局在診断において^{99m}Tc-MIBI(MIBI)は従来の^{201}Tlよりも優れていることが報告されている。今回、我々は上皮小体機能亢進症疑いの12例に対しMIBI SPECTを施行しその有用性を検討したので報告する。対象は4例は腎性上皮小体機能亢進症疑(RHP)疑であり、8例は原発性上皮小体機能亢進症(PHP)疑であった。RHPは3/4例にて検出され、手術で確認された最小の腺腫は240mgで、190mgの腺腫はMIBIで検出されなかった。1/4例は正常であった。また、PHPは6/8例において検出され、手術で確認された最小の腺腫は280mgであった。1/8例は極小腺腫(75mg)であったため陰性になったと思われる。尚、1/8例は正常であった。

以上、MIBI SPECTは上皮小体機能亢進症の局在診断において有用な検査法であると思われる。

553

^{99m}Tc-MIBI SPECTによる甲状腺癌の検討

大島統男、菊池善郎、神長達郎、原澤有美、白井辰夫、横川徳造、古井 滋、安河内浩(帝京大放)、 高見 博、佐竹省二(同1外)

^{99m}Tc-MIBI(MIBI)は上皮小体機能亢進症の局在診断に有用であることが報告されてきている。今回われわれは甲状腺癌の術前、術後、再発例についてMIBI SPECTの有用性について検討したので報告する。対象は分化癌3例、髄様癌4例、未分化癌1例の計8例である。MIBI SPECTは注射後10分後の早期像と3時間後の遅延像を撮像した。6例は甲状腺全摘出術又は部分切除後であり、6/6全例で、残存甲状腺癌や頚部、鎖骨上部、縦隔リンパ節転移さらには脊椎転移などいずれかの部位で陽性であった。残りの2例は髄様癌の家系(術前)であったが1/2例で異常集積を認め手術でも髄様癌が確認された。1/2例は極小の癌であったため検出できなかった。以上、MIBI SPECTは甲状腺癌の患者の評価において有用であった。

554

マウスを用いた ^{14}C-methionine の骨髄集積の検討

今井康則、吉川京燦、古賀雅久、吉田勝哉（放医研）
岡田淳一（成田日赤）

以前に我々は PET 検査において、^{11}C-methionine の骨髄への集積が骨髄機能、特に Hb 量と Plt 数に相関することを示した。 そこで今回はマウスを用い照射により骨髄機能を低下させ ^{14}C-methionine 集積に対する影響を検討した。4Gy 全身照射を行い骨髄機能を低下させた群と照射を行わなかった群に分け、^{14}C-methionine を静注し 1, 3, 6時間後の各々に autoradiography を施行し体内分布を調べた。マウスを解剖し、spleen,liver,kidny, を摘出し放射能を測定した。血液は一定量の血液中の放射能から全血液の放射能を算出した。骨髄は大腿骨の放射能を測定した。 ^{14}C-methionine の骨髄への取り込みは照射群で有意に低下しており methionine の、骨髄への集積に対する骨髄機能の関与が示唆された。

555

骨シンチの依頼状況ならびに有用性についての検討

大道雅英、町田喜久雄、本田憲業、高橋卓、細野眞、高橋健夫、釜野剛、鹿島田明夫、長田久人、清水裕次、岩瀬哲、豊田肇、小川桂、渡部渉、出井進也、落合健史（埼玉医大医療セ放）

99mTc-MDP 骨シンチは一般に骨転移などの骨病変の検索に用いられるが、今回当院における骨シンチの依頼状況について検討し有用性についての評価を試みた。対象は1995年から96年までの2年間とした。悪性病変（疑い含む）が1160例、良性病変が155例であった。悪性病変の内訳は乳癌428例、肺癌190例、前立腺癌172例であり、骨転移の検索や経過観察、治療効果判定に用いられた。良性病変のうち106例は骨折、関節症などの整形外科学的病変であった。

Presented by Medical*Online